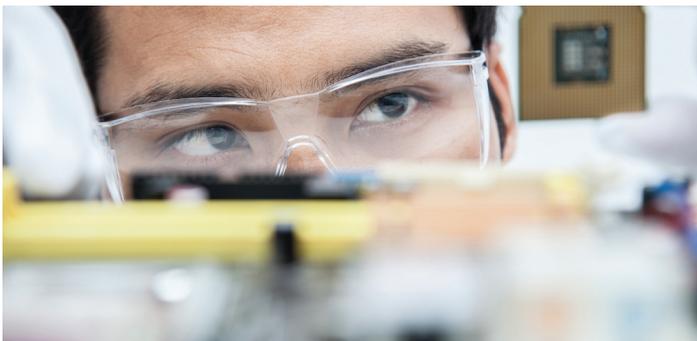


東京エレクトロン株式会社

— ANAQUAソフトウェアでグローバル知財業務を強化

東京エレクトロン(TEL™)は日本最大の半導体およびフラットパネルディスプレイの製造装置メーカーで、世界では業界3位に位置しています。



知財業務の課題

TELのこれまでの知財システムは純粋に文書データベースとして機能していました。業務ワークフローはサポートされておらず、日々の知財業務は紙ベースの事務作業や電子メールでのコミュニケーションに大きく依存していました。ANAQUA®を導入する以前、TELの米国と日本の事務所では異なるデータベースを使用していました。そして日本の事務所は米国の事務所とデータベースの内容を一致させるため、情報を二重に確認しなければなりませんでした。チームはより戦略的で価値を生み出す知財管理活動に時間をかける事を望んでいましたが、社内の出願番号を確認するだけで半日も時間がかかる業務環境にありました。

解決策

グローバルな環境における効率性

TELは真にグローバルな企業を目指すというビジョンのもと、世界に広がる拠点の知財活動を支援するためにANAQUAを選択しました。現在日本と米国のチームは日々の発明と知財管理のためにANAQUAを使用しています。

TELでは世界中の知財関連法と地域的な法律要件に合わせた設定変更が可能なシステムが必要とされていました。ANAQUAはセキュリティの確立されたシステムアクセス、柔軟なワークフロー、各国の法律に沿った四半期ごとのアップデートなどを、ソリューション統合された多言語シングルアプリケーションを通して提供する事でTELのニーズに応えました。

TELはANAQUAのクラウドホスティングサービスも重要と考えました。ホスティングサービスにより、全従業員が1つのシステムに世界のどこからでもアクセスが可能になるだけでなく、業務の継続効率が向上し、社内のITチームによる内部システムの保守業務負担を大幅に軽減させることを実現するためでした。

ANAQUAのセキュリティの確立された拡張性のあるインフラと日本・米国・欧州の現地ローカルスタッフによるサポートは、TELがANAQUAソフトウェアを選択するにあたり非常に重要な要素となりました。

TELの発明者、技術者、知的財産スペシャリスト、研究開発の専門家は、米国、日本、韓国、台湾、ベルギー、アイルランド各国の16のオフィスで毎日ANAQUAを使用しています。TELはさまざまな場所で使用されていた異なるシステムを統一するという念願の目標を、ANAQUAの展開によって達成しました。

合理化されたプロセスと強化されたコミュニケーション

「弊社の知財チームはANAQUAを積極的に活用しています」と、TEL知的財産部の管理商標グループリーダー宮崎氏は述べています。「私たちはANAQUAをコラボレーション活発化の為のプラットフォームとして活用し、単なる統一データベースを超えたソリューションとして利用しています」

ANAQUAは、TEL社内の知財チームと外部特許事務所・特許弁理士とのコミュニケーションを強化・簡略化できるようにサポートし、複数の関係者が同じプラットフォーム上で業務を行う事を可能にしました。知財チームはANAQUAのソリューション統合された特許事務所ポータルを通じて、外部特許弁理士とダイレクトなコラボレーションを行っています。さらに、TELの技術者は記録や管理のためにANAQUAを利用している知財部門とともに、ANAQUAの発明者ポータルを使用して発明や発明出願を管理しています。

ANAQUAでは構成設定変更が可能なLaw Engine機能で四半期ごとに各国法律のアップデートが行われているため、TELの知財部門は200カ国以上の法律に最新の状態でアクセスすることが可能となっています。また、ソフトウェア内に統合されたタスクとワークフローの自動アップデートにより、業務上のリスクが最小限に抑えられています。事務所間で情報を二重で記録する必要もなくなり、業務効率が向上するとともに潜在的なエラーを減少させる事も可能になりました。

現在、TELでは自社の世界中の特許と発明を一つのプラットフォームから追跡する事が可能になり、知財業務の状態をより明確に把握できる様になりました。

知財チームは社内全体の出願から認可までの発明プロセスの状態を、リアルタイムに確認することが出来るようになりました。

「紙ベースの手作業に大きく依存していた知財業務を、ワンストップのペーパーレス・デジタルソリューションへと完全に移行することができました」
TEL知的財産部管理商標グループリーダー宮崎氏

戦略的なビジネス面においては、TELの研究開発部門そして複数の事業部がANAQUA HyperView™のレポートおよびダッシュボードを知財業務の状況をリアルタイムに追跡するために使用しています。

ANAQUAで管理されている社内情報とAcclaimIPの外部特許データおよび分析機能を使いANAQUAソリューションを通して情報統合することで、ビジネスに対する優れた知見を知財部門が迅速かつ容易に提供することが可能になりました。「ANAQUA導入以前は、一度に個々の木しか見ることができませんでしたが、ANAQUAのダッシュボードにより木だけではなく森全体を見る、包括的な視点を持てるようになったと感じています」

結果

「それぞれの地域や現場で異なるTELのシステムとプロセスのすべてを統一することは、我々にとって10年来の挑戦でした」と宮崎氏は述べています。「我々は世界中の現場で使用できるグローバルな標準業務フローを確立しようと試みていました。ANAQUAのベースライン(基準)となる業務フローは、私たちの目的に非常に合致していました。ANAQUAの標準業務フローに合わせて内部プロセスを調整し、特定のビジネスニーズを満たすためにANAQUAの構成設定を変更することが出来ました。ANAQUAとともにシステムとプロセスの統一、コラボレーションの強化、そしてビジネス価値と投資利益率の向上という目標を達成することができたと感じています」



www.anaqua.com
www.anaqua.com/ja

〒150-6139
東京都渋谷区渋谷2-24-12
渋谷スクランブルスクエア39F
WeWork 内

ContactJapan@anaqua.com